

## 大学等におけるインターンシップ表彰選考委員会 所見

今回、文部科学省が「大学等におけるインターンシップ表彰」として、学生の能力伸長に寄与するなどの高い教育的効果を発揮しており、他の大学や企業等に普及するのに相応しいモデルとなり得るインターンシップをグッドプラクティスとして表彰し、その成果を広く普及することを目的に、大学・短期大学・高等専門学校から公募を実施した。

公募の結果、大学から68校、短期大学から5校、高等専門学校から4校、合計77件の申請があった。

公募に当たっては、平成29年度に創設した「大学等におけるインターンシップの届出制度」に届出のあった大学等から「1件のみ」と限定したにも関わらず、これだけ多くの申請をいただいたことに、まずは感謝したい。これらの大学等については、引き続き、学生を第一に、企業や産業界、地域としっかりと協働した教育的効果の高いインターンシップを推進していただきたい。

選考では、インターンシップの質・量の充実に向け、

- ・ 就業体験を伴うこと
- ・ 正規の教育課程の中に位置付けられていること
- ・ 組織的な取組として位置づけられていること
- ・ インターンシップの教育的効果を把握する仕組みが取られていること
- ・ 十分な実習期間が確保されていること
- ・ 企業や産業界と協働していること

について、取組の独自性や工夫を確認するとともに、グッドプラクティスの普及を図るべく、学校種や規模、地域、学問分野のバランス、受講者数にも留意し、書面と面接による選考を実施した。それらを総合的に判断し、今回、優秀賞1件、選考委員会特別賞1件、優秀賞6件の合計8つの取組を選考するに至った。これらのインターンシップは、その内容や実施体制、企業や産業界等との連携など、総合的に優れた取組となっており、他の大学等に普及するべきモデルとなり得るものだと考える。受賞校された大学におかれては、トップランナーとして、我が国のインターンシップを牽引していくことを期待する。

今回、残念ながら受賞に至らなかったインターンシップも含め、意欲的かつ創意的なものが多く申請された。それぞれの大学等の強みや特色を踏まえた特徴ある就業体験を実施しているものや、インターンシップの継続性・発展性を確保するための組織や仕組みを綿密に設計しているもの、インターンシップの効果測定において、企業や産業界と共に指標を策定しているものなど、どの取組においても多くの優れた点が確認できたことは、高く評価したい。

これらの他、表彰への申請を見送ったという大学等においては、引き続き、検討や改善、実績を積み重ねていただき、今後も教育的効果の高いインターンシップが推進されていくことを期待したい。

近年、我が国においては、産業や就業構造が急速に変化する中で、大学等におけるキャリア教育や職業教育、専門教育の強化は必須であり、そのためには、産学協働で人材育成に取り組むことが極めて重要である。その中でも、インターンシップは効果的な取組として、これまでも国や各大学等において進められてきたところである。

今後は、Society 5.0や人生100年時代の到来に向けて、インターンシップが持つ可能性に対して、学生や、社会からの期待が一層高まっていくことが予想される。

そうしたことをインターンシップに携わる者全員が認識・共有した上で、大学等における取組を国や社会が後押しすることで、教育的効果の高いインターンシップが普及するよう一丸となって取り組んでいくことを切に期待する。

平成30年12月10日

大学等におけるインターンシップ表彰選考委員会委員長 土屋恵一郎